

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上温品小学校	校長氏名	山名 朋子	生徒指導主事氏名	木村 文美
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『花束のことばの推奨』

取組のねらい『キーワード望ましい人間関係』

・クラスで花束のことばを考え、意欲的に使用することで、よりよい人間関係を作るようにする。また、あいさつ運動を通して学校生活が明るくなり、望ましい人間関係が作れるように、児童の意識を高める。

取組の具体的内容『花束のことばを増やそう』

○ 花束のことばについて

・9月から毎日使える花束のことばをクラスで1つ決めて使用する。また、花束のことばが使えているかを帰りの会や「心のブレーキふり返りカード」などでふり返る場を持つ。

○ あいさつ運動について

・9月から毎週木曜日（8：00～15）に、各クラス半分に分かれて、2つの門の前に並び「おはようございます。」と相手の顔を見てあいさつをする。活動後に、反省をしたり「心のブレーキふり返りカード」などでふり返ったりする場を持つ。

取組の課題・創意工夫『活動の見える化』

○ 花束のことばについて

・花束のことば画用紙に書いて各クラスで掲示（写真①）したり全クラスの花束のことば（写真②）を校内掲示したりすることで意識して学校生活を過ごす児童が増えた。また、企画委員会の児童が、各クラスの花束のことばを昼の放送で流したり、定期的に「心のブレーキふり返りカード」や帰りの会などで行動をふり返る場を持たせたりすることで児童に望ましい行動ができるように意識づけることができてきている。しかし、まだ、時々花束のことばの反対の意味を持つことばを使用する児童が数名見られるので、道徳や日々の学校生活においてことばのつかい方を粘り強く指導している。



(写真①)



(写真②)

○ あいさつ運動について

・あいさつリーダーを決めたり、あいさつをよびかけるポスターを作成（写真③）したりして意欲的にあいさつができるようになってきている。また、活動の様子や反省を掲示（写真④）することで次の活動への意欲づけをしている。しかし、あいさつ運動の時に遅刻をしてきたり、恥ずかしくて大きな声が出せなかったりする児童が、高学年を中心に数名いるので、「あいさつ」の意味も含め道徳の時間や学校生活において、随時指導もしている。



(写真③)



(写真④)

取組の成果（効果）『心にブレーキをかける』

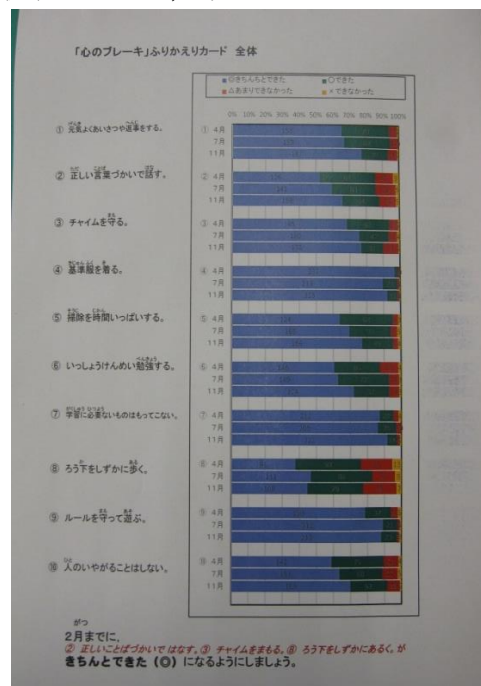
・ 1年間に4回、学校生活についてのふり返り「心のブレーキふり返りカード」（10項目）を実施し、クラスごとや学校全体の集計を掲示し、生活に生かせるようにすることで、「きちんとできた」と回答する児童が増加している。また、今年度は、地域の方や、来校者の方から、「児童がよくあいさつをしてくれる。」という声が学校に多く寄せられている。

○ 花束のこぼれについて

・ 「人の嫌がることをしない。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月59%→11月70%で11%向上した。

○ あいさつ運動について

・ 「元気よくあいさつをする。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月65%→11月77%で12%向上した。



今後の展開『達成率90%』

・ 上記の項目が「きちんとできた。」といえる児童が、90%を上回るように取組をすすめていく。

他校へのアドバイス『意識付け』

・ 児童を意欲的に活動させるには、計画、実行、ふり返りを意識づけることが大切だと感じている。また、日々の生活では、自分にも「心」があるように、他人にも「心」があるということを児童に伝えていくことや、「自分がされて嫌なことは人にしない。」「自分がされてうれしいことを人にしていこう。」という意識付けを図ることが望ましい人間関係の向上につながると考えている。